

「豊かな自然」とは

岐阜市立岩野田中学校 3年

渡邊 昊洋

皆さんはこんな植物を見たことはありませんか。黄色いコスモスのような花。「綺麗だなあ。」「家の庭で育てたいなあ。」と持ち帰りたくなりませんか。私も同じような気持ちでこの花を見ていました。自分の住む地域は、きれいな花がたくさん咲き、自然豊かな所だと思っていました。この花は、「オオキンケイギク」と言います。外国から来た植物で、強い繁殖能力を持ち、他の植物が育つ場所を奪っていく「特定外来生物」に指定されています。家に持ち帰ったりすることは法律で禁止され、罰則もあります。

私は、自然が大好きで、小学生の頃から、家の近くの鳥羽川や新川に住む魚や昆虫などを観察してきました。「オオキンケイギク」のことはテレビのニュースで知りました。各地の広場や公園では、この花が増え過ぎて困っている。根っこから引き抜くのは難しく、駆除するのは大変だという内容でした。

中1のある日、川沿いを散歩していると、黄色い花を手にもつ少年に出会いました。その花が「オオキンケイギク」だったのです。「この花は家に持ち帰ってはダメだよ」と声をかけました。少年の後ろを歩いていた保護者の方にも説明すると、「えっ」と驚きつつも僕の話を受け止めてくださいました。

この出来事をきっかけに、鳥羽川と新川で「外来生物」の調査を始めました。年に数回、3年間続けています。川に入り、タモで魚を捕まえたり、土手の植物の密度を調べたりしました。どちらの川も、水中の生物の50%は外来生物でした。特に鯉やオオクチバスが多く生息していました。皆さんも川で泳ぐ大型の鯉を見たことがあるはずです。その魚は中国の鯉と日本の鯉がかけ合わさった鯉で、「外来生物」に含まれます。これらの魚は何でも食べるため、自然の生態系にももの凄い悪影響を与えているのです。純粋な日本の鯉は琵琶湖の一部にしかいません。

水辺近くの泥には、哺乳類の足跡もたくさんありました。アライグマやハクビシンです。近所の農家さんに話を聞くと、農作物の被害状況や畑を守る苦勞を話してくれました。赤外線カメラを使って調査しました。すると、夜行性のアライグマやハクビシンなどの外来生物が確認できました。残念な結果ばかりではありません。鳥羽川の上流で、「タナゴ」という在来種を初めて確認できたときはとてもうれしかったです。

皆さん、私たちは、山に囲まれ、きれいな川が流れる岐阜に暮らしています。でも、本当に「豊かな自然」だと言えるでしょうか。

調査から、外来種は増え続けていると実感しました。でも、私は「外来種＝悪」だとは思ってはいません。なぜなら、外来生物の多くは、日本人の身勝手な都合で持ち込まれたからです。オオキンケイギクもアライグマも一生懸命に生きて、その命を次の世代に繋ごうとしています。だからこそ、私たちも、今絶滅しそうな日本固有の命を守ることが大切だと思います。私が大好きな川の生き物、タナゴやモロコ、ヤゴ、タガメ、蛍の幼虫やその餌となるカワニナなどがずっと生きている川こそ、「豊かな自然」ではないでしょうか。

私はこれからも調査を続けながら、自然を守る活動にも積極的に参加していきたいと思っています。